

## 医療情報部

### 1. スタッフ

部長（教授）小西 宏明  
副部長（教授）佐田 尚宏  
看護師長 大柴 幸子  
看護主任 葉山まつえ  
事務 11名

### 2. 医療情報部の特徴

電子カルテも3年を超え、病院情報システムとしては円熟期に入った。部内をシステム管理、診療情報管理、看護系、ヘルプデスクの4つに作業分担し、効率的な管理を行っている。

### 3. 実績・クリニカルインディケーター

データマイニング（data mining）

余り聞き慣れない用語であるが、インターネットで検索すると以下のような解説がある。

「小売店の販売データや電話の通話履歴、クレジットカードの利用履歴など、企業に大量に蓄積されるデータを解析し、その中に潜む項目間の相関関係やパターンなどを探し出す技術。」

病院情報システムの場合は蓄えられた患者の診療情報を解析し、診療や研究に役立つ情報を探し出す技術ということになる。2009年は有志の先生方の協力のもとにどのような情報が抽出可能であるのかを検証した。病院情報システムはあくまで診療録であって、研究目的のデータベースではないことがあらためて確認された。今後はデータとして利用しやすい診療録のあり方を検討していく予定である。

#### 障害訓練

当院では電子カルテ稼働の2006年から夏と冬に障害訓練を行っている。夏は模擬患者による外来診療訓練、冬はペーパーワークによる病棟訓練である。外来担当医は4年以上当院での診療経験がある医師が多いが、それでも徐々に伝票運用は記憶から遠のいている。いわんや病棟では病棟医、看護師のほとんどが伝票を扱ったことがない。

「障害時は紙があるから大丈夫」と言われて電子カルテは稼働したが、3年を経ると電気、水道のごとく病院のライフラインと化していることが実感される。これまで以上に障害訓練の重要性が増しており、毎回訓練内容を工夫しながら有事に備えたい。

### 4. 事業計画・来年の目標等

円熟期を迎えたシステムを最大限有効活用すべく、本年はいろいろな挑戦を始めた。システムの寿命は6から7年である。最近ではハードの老朽化による小さな障害も散見され始めた。ひとに例えるなら50代くらいだろうか。体力の衰えが見え隠れする。

来年2010年は全体のマイナーバージョン・アップを行う予定で、老化防止の若返り策とも言えよう。“ライフライン”の安定稼働を担保すべくハードとソフトを更新し、さらに運用を固めていく。